

農林水産大臣賞(地域振興部門)

農事組合法人 旬の味ほりがね物産センター組合

～ 直売所・農産加工・農村レストランの一体的活動と雇用創出 ～

代表者： 組合長 片桐敏雄
所在地： 長野県

構成員： 組合員161名(組合員全員が物産部、加工部、食堂部、総務部の4つの部に分かれて活動)
活動開始年月日： 平成8年5月

表彰理由

直売所を中心に中山間地域で地元消費者を主な利用者として6億円以上の販売額を上げる取組。農産物加工や食堂なども展開し、農村女性に貴重な雇用機会を創出。

知的障害者の作業員を受け入れるほか、学校給食への食材供給とともに福祉施設や学校での食農教育を支援することにより中山間地の活性化に貢献する優れた取組。

取組内容

1 直売所・農産加工・農村レストラン等の取組

- 転作田の有効利用を軸に、消費者への安心・安全な地元野菜の提供と、JA等への出荷農産物の規格外品の有効活用を目的に、昭和62年に地域内の女性主体で直売所を発足。その後、地域を限定した取組から旧堀金村全体の農産物の直売組織に発展し、平成15年度に農事組合法人を創設。
- 主な事業としては、組合員(約160名)が生産する農産物の直売所での販売及び、地元女性の手づくりの加工品の販売、地元の食材を使った食堂の運営。
- 直売所の販売額は18年度655百万円で、中山間地域で地元消費者を中心(年間利用者43万人)とした直売所としては高い水準。地場農産物の取扱数は農産物で439品目、加工品は250品目。
生産履歴などを消費者に情報提供し、顔が見える農産物を提供。また、冬場の農産物の品薄期には、他地域の農協と連携する等により、周年的な品揃えを実現。
- 隣接する加工施設で、みそ、もち、漬物など全て手づくりで昔ながらの味を製造するほか、地域住民への料理講習会、小学生や教員への伝承食講習会を開催。
- 食堂では、直売所で販売している食材を使った田舎風メニューを提供。
- 直売所、加工所、食堂は、農村女性の雇用機会を創出(20～70歳、パート約80名)するほか、地域活性化、高齢者の生きがいのある生活等に貢献。

2 学校給食への取組

- 地元のみそ、野菜を学校給食に年間を通じて提供。年に2回、生徒と給食試食会を開催するなどの交流。

3 地域・消費者との交流

- デイサービスでの地域伝統食作りに協力及び共同作業所との雇入れの協力。